

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	体験活動を通して、児童館の子どもたちが交流を深める事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利法人チルドレンズ・ミュージアム 安曇野市豊科高家 1137-69
事業区分	(2)保健、医療、福祉に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,259,072 円 (うち支援金：1,807,000 円)

事業内容

科学という言葉、思考が停止してしまいました。デジタル機器の驚異的発達の陰で、生活感やアナログ思考が停止しています。

この現象は、世界的な負の現象で、何にも興味を示さない大人や子どもたち。まるでゲームの世界が支流になりつつあります。「どうしたらいいか?」科学的分析や原因が究明されていますが、「何もしない、何もできない」

このままで良いはずがありません。しかし、現実は何?????



【 】
【目標・ねらい】

- ① 科学原理は生活の中にあります
- ② 古い科学原理は今の子どもたちにとって新しいものです
- ③ 科学原理に古い、新しいという評価は当たりません。子ども時代に体得すべき科学原理は以後の人生に役立つと信じます。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・「古い歴史を持つ科学発展」その経緯を体験することで新しい科学原理を体得する機会を提供しています。
- ・ゲームのように与えられた遊びには夢中ですが、好奇心を喚起したり、自分が満足するような発見体験が皆無になってしまった。科学の原理を再度認識することを目指しています。

※自己評価 【 A 】

【理由】
・体得をする事業ですが、子どもたちを第一にして展開している点

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・開催現場を見てくれば、ご理解を得られると思いますが、現場が第一、子どもたちが第一という第三世代型展開をしています。今後も児童館を中心に展開していくつもりです。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある